**ALINCO**

PS0937S
FNEL-NL

特定小電力ハンディトランシーバー
（総務省技術基準適合品）

# DJ-CH3
# 取扱説明書

本書には基本的な操作方法を記載しています。
拡張機能については弊社ホームページをご覧ください。

アルインコのトランシーバーをお買い上げいただきましてありがとうございます。本製品の機能を充分に発揮させ、効果的にご使用いただくため、この取扱説明書をご使用前に最後までお読みください。アフターサービスなどについても記載していますのでこの取扱説明書は大切に保管してください。また、補足シートや正誤表が入っている場合は、取扱説明書と合わせて保管してください。ご使用中の不明な点や不具合が生じたとき、お役に立ちます。本製品は免許・資格不要の特定小電力無線電話として、各種通信にお使いいただけます。


**アルインコ株式会社 電子事業部**

東京支店　〒103-0027 東京都中央区日本橋2丁目3－4　日本橋プラザビル14階　TEL.03-3278-5888
名古屋支店　〒460-0002 名古屋市中区丸の内1丁目10－19　サンエイビル4階　TEL.052-212-0541
大阪支店　〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4丁目4－9　淀屋橋ダイビル13階　TEL.06-7636-2361
福岡営業所　〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目13－34　エコービル2階　TEL.092-473-8034


**アフターサービスに関するお問い合わせは**
**お買い上げの販売店または、フリーダイアル 0120 0120-464-007**
全国どこからでも無料で、サービス窓口につながります。
受付時間／ 10:00～17:00 月曜～金曜（祝祭日及び 12:00～13:00 は除きます）
ホームページ　http://www.alinco.co.jp/「電子事業」をご覧ください。

## 安全上のご注意

**本製品を正しく安全にご使用頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損失を未然に防止するために必ずお読みください。誤った使い方で生じる内容を図記号と共に説明しています。その表示と意味は次のようになっています。**

| 表　示 | 表示の意味 |
|---|---|
| ⚠ 警 告 | この表示を無視して誤った取り扱いをすると人が死亡する、または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。 |
| ⚠ 注 意 | この表示を無視して誤った取り扱いをすると人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害の発生が想定される内容を示しています。 |

| 表　示 | 表示の意味 |
|---|---|
| (記号) | しなければならないことを告げるものです。 |
| (記号) | してはいけないことを告げるものです。 |

天災や人災、不測の故障などで生じた損害につきましては、弊社は一切その責任を負いかねますので、予めご了承ください。

### ⚠ 警 告

#### ■使用環境・条件

本製品を使用できるのは、日本国内のみです。国外では使用できません。
This product is permitted for use in Japan only.

本製品を人命救助などの目的で使用して、万一、故障・誤動作などが原因で人命が失われることがあっても、製造元および販売元はその責任を負うものではありません。

本製品どうし、または他の無線機とともに至近距離で複数台使用しないでください。お互いの影響により故障・誤動作・不具合の原因となります。

本製品を何らかのシステムや電子機器の一部として組み込んで使用した場合、いかなる誤動作・不具合が生じても製造元および販売元はその責任を負うものではありません。

指定以外のオプションや他社のアクセサリー製品を接続しないでください。故障の原因となります。

自動車などの運転中に使用しないでください。交通事故の原因となります。
運転者が使用するときは車を安全な場所に止めてからご使用ください。携帯型無線機を運転者が走行中に使用すると道路交通法違反で罰せられます。

電子機器の近くでは使用しないでください。電波障害により機器の故障・誤動作の原因となります。

内部から漏れた液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、中継局周辺では使用しないでください。
運行の安全や無線局の運用、放送の受信に支障をきたしたり、各種機器が故障・誤動作する原因となります。
病院や医療機関では、医療機器などに支障がないか十分に確認の上、管理者の許可のもとご使用ください。
無線機を使用したことによって、いかなる誤動作・不具合が生じても、弊社は一切その責任を負いかねますのでご了承ください。

#### ■トランシーバー本体の取り扱いについて

本製品は調整済みです。特定小電力トランシーバーをユーザーが改造、変更することは法律で禁止されています。

イヤホンを使用するときはあらかじめ音量を下げてください。聴力障害の原因となることがあります。イヤホンを耳に装着する際、静電気が放電することがありますのでご注意ください。

近くに小さな金属物や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。

本製品は防爆仕様ではありません。引火性ガスが発生する場所では使用しないでください。静電気などによる発火事故の原因となります。

テレビやラジオの近くで使用しないでください。電波障害を与えたり、受けたりすることがあります。

湿度の高い場所、ほこりの多い場所、風通しの悪い場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

ぐらついた台の上や傾いた所、振動の多い場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

グループトーク機能を使用する際、特定の番号において異なる機種との間で通話が途切れる場合があります。このような時は違う番号を選んで通話をお試しください。これはグループトーク機能に使われるトーン信号の精度が機種によってばらつくことによる相性のためであり故障ではありません。

直射日光があたる場所や車のヒーターの吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所には置かないでください。内部の温度が上がり、ケースや部品が変形・変色したり、火災の原因となることがあります。

調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

インバーターを搭載した電子機器や照明器具などの周辺、ハイブリッドカーや電気自動車などの車内や周辺ではノイズの影響で電波障害を受けることがあります。

磁気カードを無線機器の近くに置かないでください。磁気カードのデータが消去されることがあります。

マイク部にシール類を貼らないでください。相手に音声が聞こえなくなります。

#### ■充電器の取り扱いについて

指定以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

充電器の AC プラグのコードをタコ足配線しないでください。加熱・発火の原因となります。

ぬれた手で充電器の AC アダプターに触れたり、抜き差ししないでください。感電の原因となります。

充電器の AC アダプターを、AC コンセントに確実に差し込んでください。AC アダプターの刃に金具などが触れると、火災・感電・故障の原因となります。

充電器の AC アダプターの刃に、ほこりが付着したまま使用しないでください。ショートや加熱により火災・感電・故障の原因となります。

#### ■異常時の処置について

以下の場合は、すぐ本体の電源を OFF にして、充電器をご使用の場合は、AC アダプターを AC コンセントから抜いてください。異常な状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。修理はお買い上げの販売店、または弊社サービス窓口にご連絡ください。お客様による修理は、違法ですから、絶対にお止めください。

■本体が熱くなったり、煙が出たとき。
■異音や異臭がしたとき。
■落としたり、ケースを破損したりしたとき
■内部に水や異物が入ったとき
■AC アダプターのコードが傷んだとき（芯線の露出や断線など）

雷が鳴り出したら安全のため本体の電源を OFF にし、充電器をご使用の場合は AC アダプターを AC コンセントから抜いて、ご使用をお控えください。

#### ■保守・点検

本体や充電器のケースは、開けないでください。けが・感電・故障の原因となります。内部の点検・修理は、お買い上げの販売店または弊社サービスセンターにご依頼ください。

### ⚠ 注 意

#### ■使用環境・条件

ケースが変形する原因となりますので直射日光が当たるなど高温になる場所での使用、保管は避けてください。

イヤホンマイクなどが汗や水で濡れたときは拭き取ってください。水分がケーブルを伝って機器内部へ入ると故障の原因となります。

#### ■トランシーバー本体の取り扱いについて

アンテナ先端などの突起物が、目や鼻など傷つきやすい部位に当たらないようご注意ください。

ズボンのポケットに入れないでください。座ったときなどに無理な力が加わり故障する原因となります。

本製品は使用していなくてもわずかな待機電流により電池が放電し、長期間放置していると使用できなくなることがあります。長期間ご使用にならないときは安全のため本体の電源を切り、電池を取り外してください。

衝撃や水分、異物の混入などによる故障の場合は、保証対象外になります。

#### ■充電器の取り扱いについて

充電器の AC アダプターを抜くときは、コードを引っ張らないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。必ず AC アダプターを持って抜いてください。

充電器の AC アダプターを熱器具に近づけないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

充電器を長期間ご使用にならないときは安全のため AC アダプターを AC コンセントから抜いてください。

#### ■保守・点検

汚れた場合は柔らかいきれいな布で乾拭きしてください。
ベンジン、シンナー、アルコール、洗剤などを使うと外装や文字が変質する恐れがあります。
洗浄剤などを直接無線機に吹き付けないでください。機器内部に浸透し故障の原因となります。

お手入れの際は、安全のため必ず本体の電源を OFF にして、充電器をご使用の場合は、AC アダプターを AC コンセントから抜いてください。

オプションのマイクやイヤホンをお使いのときは、ケーブルをときどき湿らせた布で拭いてください。
汗や皮脂はケーブルを劣化させる原因となります。

技術基準適合証明ラベルおよび製造番号ラベルをはがさないでください。
製造番号がわからないと保証サービスをお受け頂くことができません。

## 使用前のご注意

### ■ご使用環境
高温、多湿、直射日光が当たり続けるところ、粉塵が多い場所は避けてご使用ください。

### ■分解しないで
特定小電力トランシーバーの改造、変更は法律で禁止されています。分解したり内部を開けることは絶対にしないでください。

### ■ご使用禁止場所
本製品は総務省技術基準適合品ですが、使用場所によっては思わぬ電波障害を引き起こすことがあります。次のような場所では使用しないでください。
（航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、中継局周辺）

本製品を使用できるのは日本国内のみです。国外では使用できません。
This product is permitted for use in Japan only.

### ■通信距離
通話できる距離は周囲の状況や取り付け方によって大きく異なります。
- 海上、山頂など条件のよい所　：1km ～ 2km 程度
- 河原など障害物のない平地　：500m ～ 1km 程度
- 見通しのよい道、郊外の住宅地：500m 程度
- 市街地のような障害物の多い所：200m 程度
- Low パワー（1mW）での通信距離は半分以下まで短くなる場合があります。

注意
・建屋内の縦階層間の通話はフロアが障害物になるため、直線では十数メートルの近距離であっても通話できないことがあります。このような場合は中継器を設置することで通話エリアを広げることができます。
・人体を含む障害物やアンテナの向き、歩くなど移動による影響を受けると、通話距離は半分程度まで短くなることがあります。
・トンネルのような閉鎖的空間では UHF 電波伝播の特性により近距離でも通話できないことがあります。

### ■第三者による傍受
電波を使用している関係上、無線機器の通話は第三者による傍受を完全に阻止することはできません。そのため機密を要する重要な通話に使用することはお勧めできません。

### ■グループトーク機能について
従来製品とグループトークによる通話をおこなった際、受信音声が途切れることがあります。
このような場合は違うグループ番号に設定変更して 通話をお試しください。

### ■バッテリーセーブについて
電池の消耗を防ぐ機能です。受信待ち受け状態で約 5 秒間キー操作がないとこの機能が動作します。信号を受信するか、キー操作がおこなわれるとバッテリーセーブは解除されます。バッテリーセーブ動作時に信号を受信すると、通話の始めが途切れる場合がありますが、異常ではありません。

### ■ 外郭保護性能について
付属の防水キャップまたは弊社指定の純正防水型アクセサリーを本体に装着することで、IP55 相当の耐塵防水になります。ただし、常に水しぶきや海水、油脂、薬品がかかる環境や、鉄粉が飛散するような環境での使用で発生する不具合については保証しておりません。また、すべての製品を出荷前に検査してその性能を保証するものではない「相当品」ですので、水没、流水での洗浄は絶対におやめください。濡れたときは乾いた布で手早く拭き取り、電池を抜いて内部をよく乾燥させてください。防水素材は時間が経つと劣化しますので、弊社では外郭保護性能についても製品と同じ保証期間とさせていただいております。

## 特定小電力の通信制限について

**特定小電力トランシーバーの通信に関する制限事項について説明します。**

### 3分制限（3分以上は連続で送信できません）

10 秒前に警告音が鳴ります。通信時間が合計3分になると自動的に送信は停止します。
中継通信の場合も連続した中継動作が3分を越えるとタイムアウトします。

注意　3分の通信時間制限により、自動的に通信が停止した後は、約2秒たたないと次の送信はできません。

### キャリアセンス（受信中は送信できません）

一定の強さ以上の信号を受信しているときは [PTT] キーを押しても送信できません。
受信中に [PTT] キーを押すとアラーム音が鳴り、送信できないことをお知らせします。

注意　ガイダンス音量を OFF に設定しているときは、アラーム音は鳴りません。

## 付属品と取り付け方

### 付属品をご確認ください

□ ベルトクリップ（EBC-55）　□ 取扱説明書（本書）　□ 保証書

注意　保証書にご購入の日付が記載されていないときは領収書やレシートを保証書といっしょに保管してください。ご購入日が証明できる書類がないと保証サービスは無効となりますのでご注意ください。

### ベルトクリップの取り付け、取り外し

本機のベルトクリップは出荷状態で取り付け済みです。取り外すときはロックレバーを押さえながら下方向へスライドさせます。

注意　ベルトクリップは消耗品です。保守部品（EBC-55）として販売しています。お買い求めの際は販売店にご相談ください。

取外し時

## 電池の入れ方

① カバーを開ける
　ロックを外してカバーを開けます。
② 電池を入れる
　+/– の表示に従って単三形乾電池
　3 本をセットします。
③ カバーを閉める
　カバーを閉めロックをかけます。

注意　種類が異なる電池や、新品と古い電池を混ぜて使用しないでください。市販の単三形充電池はご使用になれません。しばらく使用しないときはトランシーバーから電池を取り外してください。電池を入れたままで液漏れすると修理ができなくなります。電池カバーは保守部品として販売しています。お買い求めの際は販売店にご相談ください。（電池カバー品番：ADBCH3（白）、ADBCH5（黒））

## バッテリーおよび充電器（別売）

バッテリー、充電器および関連するアクセサリーは下記のとおりです。
- リチウムイオンバッテリー　EBP-70（3.7V/1000mAh）
- ツイン充電器セット　EDC-158A
- ツイン連結スタンド　EDC-158R
- 連結充電用 AC アダプター　EDC-162
- シングル充電器セット　EDC-184A

空のリチウムイオンバッテリーを満充電するのに要する時間は約 2.5 時間です。充電器の動作温度範囲は 0 ～ +40℃です。

注意　別売のリチウムイオンバッテリーは出荷時には十分に充電されていません。お買い上げ後に満充電にしてからご使用ください。弊社の充電器は、対応する弊社製品専用です。市販の充電池を充電することはできません。
充電するときはトランシーバーの電源を切ってください。電源を入れたままだと満充電にならないことがあります。

注意　安全のためリチウムイオンバッテリーを、窓際や車内など直射日光により高温になる場所には放置しないでください。
リチウムイオンバッテリーは充電回数や使用状態の如何にかかわらず経年劣化する性質があります。安全にご使用いただくため 3 年程度を目処に新品への交換をお勧めします。

注意　本機はニッケル水素バッテリー EBP-25NH および充電器セット EDC-109J、EDC-115 をご使用になれません。

## リチウムイオンバッテリー EBP-70 の充電（EDC-158A/EDC-184A）

① リチウムイオンバッテリー EBP-70 を極性に注意してトランシーバーに装着します。
② AC アダプターのプラグを充電スタンドのジャックに接続します。
③ AC アダプターを家庭用コンセント AC100V に接続します。
④ トランシーバーを充電スタンドの、前後いずれかのポケットに挿入します。
　EDC-158A は 2 台同時に充電することもできます。
⑤ 充電が開始され赤色ランプが点灯します。
⑥ 充電が完了すると赤色ランプが消灯します。EDC-184A では緑色ランプが点灯します。
⑦ バッテリーパック単品で充電することもできます。
　バッテリーパックの極性に注意して充電スタンドに装着してください。

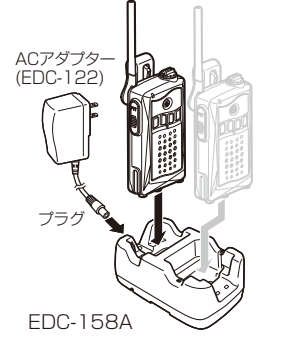
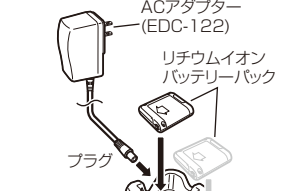
注意　充電ランプの動作について
バッテリーが満充電に近いと充電開始を知らせるランプが点灯しないことがあります。
このようなときは、しばらくトランシーバーを使って減電池表示が出たら充電してください。これは過充電を防止する回路が働いているためであり、故障や異常ではありません。

充電器の前方のポケットではランプが点灯するが後方のポケットでは点灯しない、あるいはその逆の動作をする場合も、しばらくトランシーバーを使って電池を使い切ってから充電してください。
充電開始を検知する回路の個体差により、このような動作をすることがありますが異常ではありません。

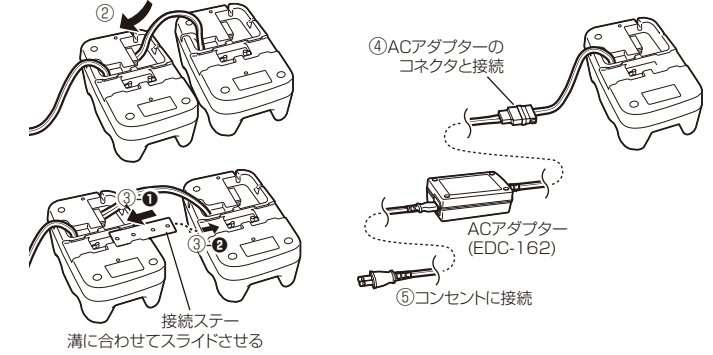
リチウムイオンバッテリーは定格電圧（50% 充電程度）での保存が推奨されています。
特に電池が減ったまま保存すると数ヶ月で充電できなくなることがありますので、定期的に通電して補充電するメンテナンスをおこなってください。

EDC-158A

EDC-158A

注意　充電器にトランシーバーを挿入してもうまく充電しないときは、充電端子の汚れを乾いた布で拭き取ってください。

### 連結スタンド EDC-158R による充電

EDC-158R を使用して連結充電する場合、必ず大容量の AC アダプター EDC-162 が必要です。

① AC アダプターが EDC-162 であることを確認します。
② スタンドのコネクタどうしを接続します。スタンドは最大 4 台まで連結できます。
③ 付属の接続ステーをスタンド底面の溝に合わせてスライドさせます。
確実にスタンドどうしが固定されたことを確認してください。
④ AC アダプターのコネクタを、端のスタンドのコネクタに接続します。
⑤ AC アダプターを家庭用コンセント　AC100V に接続します。
⑥ トランシーバーまたはバッテリーパック単品を充電スタンドのポケットに挿入します。
充電が開始され赤色ランプが点灯します。
スタンドを 4 台連結して、最大 8 台までのトランシーバーまたはバッテリーパック単品を同時に充電することができます。
⑦ 充電が完了すると赤色ランプが消灯します。

## 各部の名前とはたらき

**注意** マイク穴にシール類を貼り付けないでください。送信する際の音声を拾わなくなります。

**注意** イヤホンマイク製品をご使用になる際は、ケーブルに無理な力が加わって断線しないよう、取り扱いにご注意ください。

## 基本操作

**本機の基本となる操作方法を説明します。**

本書に記載していないカスタマイズ方法や拡張機能については弊社ホームページをご覧ください。http://www.alinco.co.jp/ 「電子事業部」
スマートフォンなどで本機背面の QR コードを読み取り、弊社ホームページにある取扱説明書を参照することができます。

### 音声ガイダンス

本機はチャンネルやグループなどの設定内容、および各状態を音声でお知らせします。

### キー操作

「キーを押す」とは、押してすぐに離すことを指します。
「キーを長押しする」とは、2 秒間押し続けることを指します。
「A キーを押しながら B キーを押す」とは、A キーを押している間に B キーを押してすぐに離すことを指します。

### 電源を入れる

電源キーを長押しします。ランプが青色に点灯し、チャンネルとグループを音声でお知らせします。電源を切るときも同じ操作をします。

**メモ** 電源が入っているときに電源キーを押すと、チャンネルとグループを音声でお知らせし、設定内容を確認することができます。

### イヤホン断線検知機能

イヤホン製品を接続している状態で電源を入れたときに、自動的に接続状態を確認します。断線しているとランプが赤色と緑色の交互点滅をするとともに「イヤホンが断線しています」が鳴ってお知らせします。プラグが緩んでいないか接続状態を確認し、故障していたら新しいものにお取り替えください。

### 音量を調整する

▽／△キーを押すと「ピッ」という音が鳴り音量が切り替わります。キーを押し続けると連続して音量が切り替わります。▽／△キーを同時に押して離すと「ザー」というノイズが鳴り音量調整の目安となります。適切な音量に調整してください。

**注意** イヤホンを使用するときはあらかじめ音量を下げてください。音量を大きくし過ぎると聴力障害の原因となるおそれがありますので、小さい音から徐々に上げて調整してください。

### 送信する

PTT キーを押しながらマイクに向かって話します。ランプが赤色に点灯します。PTT キーを離すと受信待ち受け状態になります。

**メモ** 中継器を介した通話をおこなう際は PTT キーを押し続けます。「ピピ」という音が鳴って中継器にアクセスします。そのままPTTキーを押しながらマイクに向かって話します。

**注意** 一定の強さ以上の信号を受信しているときはキャリアセンスが働き、「ププブ」という警告音が鳴り送信できません。信号が無くなるのを待って送信してください。ガイダンス音量を OFF に設定しているときは、警告音は鳴りません。

### コールトーン機能

送信中に▽／△キーを押すと呼び出し音が送出され、相手を呼び出すことができます。
ガイダンス音量を OFF に設定しているときは、呼び出し音は鳴りません。

### 受信する

信号を受信するとスピーカーやイヤホンから相手の声が聞こえます。ランプが緑色に点灯します。

**メモ** 本機にはテールノイズキャンセラー機能が搭載されており、受信終了時の「ザッ」というノイズが低減されています。本機能を搭載した弊社機器間の通話においてのみ有効です。

### チャンネル設定

交互通話 20 チャンネル、中継通話 27 チャンネルの中から使用するチャンネルを選択してください。
△(アップ）キーを押しながら電源を入れます。ランプが黄色に点灯し「チャンネルを選択してください」が鳴ります。
▽／△キーを押してチャンネルを選択してください。選択したチャンネル番号が鳴ります。
そのまま 5 秒間放置するか、PTT キーを押すと設定が完了します。

| | ▽／△キーを押してチャンネルを選択します |
|---|---|
| 交互通話 | L1 ～ L9、B1 ～ B11（20 チャンネル） |
| 中継通話 | L10 ～ L18、B12 ～ B29（27 チャンネル）別途、中継器が必要です。 |

**メモ** キーロック解除中は F キーを押しながら▽／△キーを押すことによってチャンネルを選択することができます。

### グループトーク機能

同じグループの人とだけ通話したいときはグループトーク機能を設定します。
同じグループのトランシーバーはすべて同じグループ番号としてください。
グループ番号は 50 通りの中からひとつを選択してください。

### グループトーク機能の設定

GR（グループ）キーを押します。「グループ、オン」が鳴り機能が有効になります。
もう一度キーを押すと「グループ、オフ」が鳴り機能が無効になります。

### グループ番号の設定

▽(ダウン）キーを押しながら電源を入れます。ランプが紫色に点灯し「グループを選択してください」が鳴ります。
▽／△キーを押してグループ番号を選択してください。選択したグループ番号が鳴ります。
そのまま 5 秒間放置するか、PTT キーを押すと設定が完了します。

**メモ** キーロック解除中は GR キーを押しながら▽／△キーを押すことによってグループを選択することができます。

### キーロック

キーロックしておくと誤操作を防止できます。

### 簡易キーロック

🔑キーを長押しします。「キーロックを設定しました」が鳴ります。
解除するには同じキー操作をします。「キーロックを解除しました」が鳴ります。

### 通常キーロック

🔑キーと GR キーを同時に長押しします。「キーロックを設定しました」が鳴ります。
解除するには同じキー操作をします。「キーロックを解除しました」が鳴ります

**メモ** キーロック中に無効なキー（F、GR）を押すと「簡易キーロック中です」あるいは「通常キーロック中です」が鳴って操作できないことをお知らせします。キーロック中も電源キー、PTT キー、▽／△(音量）キーは操作可能です。

### セットモード

各種機能を用途やお好みに応じてカスタマイズすることができます。

### セットモードにする

F キーを押しながら GR キーを押します。ランプが黄色点滅しセットモードになります。
「セットモード」と鳴った後に、「1（No.)」→「電池選択」→「乾電池」が鳴ります。
項目の選択は GR キーを押すと順送りし、F キーを押すと逆送りします。
設定値の切り替えは▽／△キーを押します。選択した番号、項目、設定値を音声でお知らせします。
PTT キーを押すと設定が完了し受信待ち受けに戻ります。
セットモードで 1 分間キー操作しないと自動的に受信待ち受けに戻ります。

| No. | 項　目 | 設　定　値 | 初期値 |
|---|---|---|---|
| 1 | 電池選択 | 乾電池／リチウム電池 | 乾電池 |
| 2 | コンパンダー ( 雑音低減 ) | OFF ／ ON | OFF |
| 3 | PTT ホールド ( 送信保持 ) | OFF ／ ON | OFF |
| 4 | VOX( 音声検知送信 ) | OFF ／ Low ／ High | OFF |
| 5 | コールバック ( 音声モニター ) | OFF ／ ON | OFF |
| 6 | エンドピー ( 送信終了音 ) | OFF ／ ON | OFF |
| 7 | 秘話 | OFF ／ ON | OFF |
| 8 | ベル ( 呼び出しお知らせ ) | OFF ／ ON | OFF |
| 9 | ガイダンス音量 | OFF ／ Low ／ High | Low |
| 10 | 送信出力 | High(10mW) ／ Low(1mW) | High(10mW) |
| 11 | 緊急通報機能 (E キー長押し ) | OFF ／ ON | OFF |
| 12 | オートパワーオフ | OFF ／ 30 分／ 1 時間／ 1 時間 30 分／ 2 時間 | OFF |
| 13 | 受信音ミュート（接客モード） | OFF ／ハンド／タッチ／ボイス | OFF |

**メモ** エンドピー（送信終了音）は送信側から発せられるため、機能を ON/OFF する際は送信側機器を設定してください。

セットモードの詳しい内容や拡張機能については弊社ホームページをご覧ください。
http://www.alinco.co.jp/ 「電子事業部」
スマートフォンなどで本機背面の QR コードを読み取り、弊社ホームページにある取扱説明書を参照することができます。

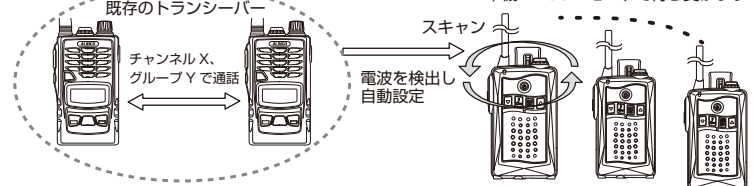
### 緊急通報

セットモードで本機能を ON に設定すると、緊急通報を発することができます。
E キーを長押しします。自機のスピーカーから警報音が鳴るとともに、緊急通報信号を送信します。
信号を受信したトランシーバーからは警報音が鳴ります。

### チャンネルとグループ番号の自動設定

ACSH「アクシュ」モード（Auto Connect Shake Hands）について説明します。

既に使用しているトランシーバーのチャンネルとグループ番号をスキャンして検出し、本機に同じものを自動設定する機能です。
キー操作によるチャンネルとグループ番号の設定作業が省略できます。
本機能は交互通話および中継通話においてご使用頂けます。

### 概要

### ACSH「アクシュ」モード

① 電源を切った状態で電源キーを約 7 秒間押し続けます。途中で起動音が鳴りランプが青色点灯しますが、そのまま押し続けます。
② 「アクシュモードです」と鳴り、ランプが青色と緑色の交互点滅をします。
複数台を同時に設定する場合は、他の個体も同じ状態にします。
③ 「設定もととなるトランシーバーを送信してください」と鳴り電波のスキャンを始めます。
④ 設定もととなる既にご使用中のトランシーバーを送信状態にします。
このまましばらくお待ちください。
⑤ 電波を検知すると「ピピ」「自動設定が完了しました」と鳴ります。
自動設定された通話モード、チャンネル、グループ番号が鳴ります。
⑥ 自動的に本機の電源が切れます。電源キーを長押しして電源を入れ直してください。

**注意** 本機を ACSH モードにして既存機器が発する電波を受信し、自動設定が完了するまでの時間は数秒から最大で 2 分程度を要することがあります。

ACSH モードを起動し本機が電波をスキャンしているときは、送信側（設定もと）機器のマイクから音声が入らないようにご注意ください。音声により信号が乱されて正常に判定できないことがあります。

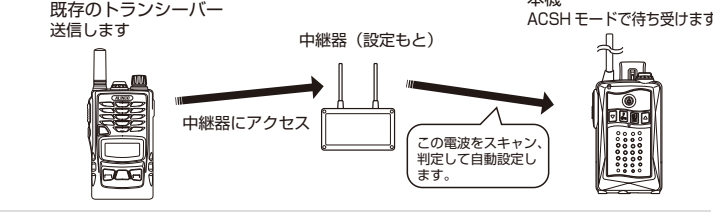
グループ番号の検出においてトーン周波数が近いものは動作が不安定であったり、誤判定することがあります。（例：01 番「67.0Hz」と 39 番「69.3Hz」など）数回スキャンを試みても誤判定する場合は、グループ番号を 01 ～ 38 番の範囲に設定してご使用ください。

ACSH モードでの自動設定は、外来電波による誤判定を防ぐため近距離でおこなってください。

自動設定中は電源を切らないでください。正しく設定されないことがあります。

ACSH モードで自動設定が完了すると、誤操作を防ぐためキーロックが設定されます。自動設定後にキー操作でチャンネルやグループ番号を変更する際は、キーロックを解除してからおこなってください。
またリセットすることにより ACSH モードで自動設定した内容は消去されます。

### 中継子機とするとき

中継子機として自動設定する際は、中継器が発する電波を受信する必要があります。本機を ACSH モードにして、既存のトランシーバーから中継器にアクセスします。中継動作中に自動設定がおこなわれます。

**注意** 中継器から発せられる電波をスキャンするときは、グループ（トーン）信号が正常に判定できないことがあります。機器によりグループ（トーン）信号の波形や精度が異なるためであり、このようなときはグループ番号を01～38番の範囲に設定してご使用ください。

### 減電池お知らせ

電池の電圧が低下するとランプが青色点滅してお知らせします。さらに電圧が低下すると点滅周期が速くなるとともに、セットモードで乾電池を選択していると「電池を交換してください」、リチウム電池を選択していると「充電してください」が定期的に鳴りお知らせします。

### リセット（初期化）

電源を切った状態で F キーと電源キーを同時に 5 秒間押し続けます。途中でランプが青色点灯しますが、そのままキーを押し続けます。ランプが白色点灯に変わり「初期化しました」が鳴ります。
チャンネルやグループおよびセットモードの設定内容は初期化されます。

## 故障とお考えになる前に

| 症　状 | 原　因 | 処　置 |
|---|---|---|
| 電源が入らない。<br>ランプが点かない | 電池の入れ方が間違っている。 | 電池を正しく入れ直してください。 |
| | 電池の電圧が低下している。 | 新しい電池と交換してください。<br>充電池を充電してください。 |
| 音が出ない。<br>受信できない。 | 音量が低すぎる。 | 適切な音量に調整してください。 |
| | 相手とチャンネルが違う。 | 同じチャンネルに合わせてください。 |
| | 相手とグループ番号が違う。 | 同じグループ番号に合わせてください。 |
| | 相手と距離が離れすぎている。 | 通信距離を目安に通信してください。 |
| 送信できない。 | 信号を受信している。 | 信号がなくなってから送信してください。 |
| | 3分の通信時間制限を超過している。 | PTT（送信）キーを離し 2 秒経過してから送信してください。 |
| キー操作できない。 | キーロックされている。 | キーロックを解除してください。 |
| 充電しない。 | 充電端子が汚れている。 | 充電端子の汚れを取り除いてください。 |
| | 充電池が劣化している。 | 新しい充電池に交換してください。 |

処置を施しても異常が続くときはリセットしてください。
電池の電圧が低下していると誤動作することがあります。新しい電池に交換してください。

## 生産終了品に対する保守年限

生産終了後5年間は補修用部品を在庫しています。不測の事態で欠品した場合には保守ができなくなることがありますのでご了承ください。

## オプション一覧

EBP-70 リチウムイオンバッテリー
EDC-158A ツイン充電器セット
EDC-158R ツイン連結スタンド
EDC-162 連結充電用 AC アダプター
EDC-184A シングル充電器セット
EME-58 ストレートコードイヤホン　耳かけ型
EME-32A イヤホンマイク　カナル型
EME-48A イヤホンマイク　耳かけ型
EME-62A 咽喉イヤホンマイク　カナル型
EME-63A ヘルメット用ヘッドセット
EME-64A ヘッドセット
EME-36A イヤホンマイク　カナル型
EME-59A イヤホンマイク　耳かけ型
EME-65A イヤホンマイク　耳かけ型
EME-69A イヤホンマイク　オープンエア型
EME-70A イヤホンマイク　カナル型
EMS-62 スピーカーマイク　IP54 相当 *
EMS-71 スピーカーマイク　IP67 相当 *
EDS-14 プラグ変換ケーブル
EBC-55　ベルトクリップ
*スピーカーマイクは PTT ホールド機能、VOX 機能、コールバック機能をご使用になれません。

## 定格

| 項目 | 値 |
|---|---|
| 送受信周波数 | 422.0500 ～ 422.1750MHz ／ 422.2000 ～ 422.3000MHz<br>421.5750 ～ 421.7875MHz ／ 421.8125 ～ 421.9125MHz（受信）<br>440.0250 ～ 440.2375MHz ／ 440.2625 ～ 440.3625MHz（送信） |
| 周波数制御チャンネル | 422.1875MHz、421.8000MHz（受信）、440.2500MHz（送信） |
| 電波形式 | F3E（FM)、F1D（FSK） |
| 送信出力 | 10mW、1mW |
| 受信感度 | －14dBu（12dB　SINAD） |
| 音声出力 | 400mW 以上（本体スピーカー）／ 80mW 以上（外部出力）（8Ω負荷） |
| 通信方式 | 単信、半複信 |
| 定格電圧 | DC3.7V ／ 4.5V |
| 消費電流 | 送信時：約 68mA（Hi）／約 55mA（Lo）<br>受信定格出力時：約 100mA（外部出力 50mW ／ 8Ω負荷）<br>受信待ち受け時：約 73mA<br>バッテリーセーブ時：約 20mA |
| 動作温度範囲 | －10 ～ +50℃（充電は 0 ～ +40℃） |
| 寸法 | 高さ 94mm× 幅 54.8mm× 厚さ 27.3mm（突起物除く）<br>アンテナ起立時全高 165.4mm |
| 重さ | 約 97g（ベルトクリップ含む、電池除く） |

・ 仕様、定格は予告なく変更する場合があります。
・ 本書の説明用イラストは実物とは字体や形状が異なったり、一部の表示を省略している場合があります。